



香川大学からつながる
校友コミュニケーション

Kadai SALON

香川大学校友会会報



上田 夏生 UEDA NATSUO

香川大学校友会会長
香川大学学長

大阪市出身

徳島大学大学院医学研究科

博士課程修了(1987)

香川大学医学部長

香川大学副理事を経て、

2023年10月より現職。専門生化学。

令和5年10月より、香川大学校友会会長に就任いたしました香川大学長の上田夏生でございます。

香川大学校友会の皆様方には、日頃より本会の活動に対してご理解、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

校友会は、卒業生、在学生、保護者及び教職員等が、一丸となって母校である香川大学を支援していくことを目的に、令和元年11月に設立しました。校友会では、在学生への支援と会員間の連携を図るため、学生生活・修学支援、課外活動支援、海外留学支援、緊急学生支援(被災学生支援)、就職活動支援、大学環境整備支援、会報発行、ホームカミングデーの開催など、様々な事業を展開しています。

大学にとって学生の皆様が生き生きと輝いていることが何よりも大切です。そのために社会のニーズに合った教育を行い、学生がチャレンジできる多様な機会を設け、社会人が学び直しをしやすい環境を整え、地球規模の課題や地域社会の課題の解決につながる研究に注力したいと思います。

今後は、香川大学のさらなる発展を目指して、香川大学校友会として力強い支援・協力を行っていくとともに、校友の皆様が誇りを持ち、親しみを持って訪問できる母校となるよう、さらに活動範囲を広げてまいりたいと思っています。校友会の皆様方におかれましても、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、この会報誌をご覧いただくことにより、これまで以上に校友会に関心をお持ちいただき、その活動を身近に感じていただければ幸いです。校友会の皆様様の益々のご健勝とご活躍を祈念して、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

校友会は会員の皆さんが充実した 学生生活を過ごすために支援を行います。

食の支援や就職活動など、対象を限らない支援だけでなく、
修学支援や海外留学支援などの個別支援も、大学の各部署と協力して実施しています。
また、大学との共同イベント「ホームカミングデー」を4年ぶりに対面で開催しました。(P6・P7掲載)

01

学生生活支援・修学支援 / 食の支援 学生応援Dayを開催

今年度も食による生活支援を2回に分けて支援しました。

まず第一弾は、令和5年6月・7月に各キャンパスに於いて4回昼食(カレー、丼等)を提供しました。また、令和6年1月・2月には、【香川へお帰り】と題して、香川県の郷土料理(あん餅雑煮・しっぽくうどん)を各キャンパスの学生に提供しました。香川大学に在籍している学生の約7割が県外出身者のため、県外出身の学生には香川の食文化に触れてもらおうとともに、県内出身の学生についても家庭の味とは違った味を楽しむ機会となりました。

※食の支援の企画運営は、香川大学学生生活支援課及び香川大学生生活協同組合が行い、必要な費用は香川大学校友会が支援を行いました。

02

学生生活支援・修学支援 / 令和5年度 学業優秀表彰の 皆さんへ記念品を贈呈

各学部・研究科から推薦のあった、学業成績優秀者学長表彰を受けた56名(学部学生40名、大学院学生16名)の皆さんに校友会からAmazonギフト券をお贈りしました。

03

学生生活支援・修学支援 / 令和5年度 学術研究活動 表彰の皆さんへ記念品を贈呈

研究活動において特に顕著な業績を挙げたと認められ、学術研究活動表彰を受けた大学院生10名の皆さんに校友会からAmazonギフト券をお贈りしました。

★第2回が2024年3月頃予定

04

学生生活支援・修学支援 / 教育補助業務を通じた 学生への経済的支援

優秀な学生に対し教育的配慮の下に教育補助業務を行わせることにより、経済的支援に資するとともに学生相互の成長を図ることを目的とするチューデント・アシスタント及びティーチング・アシスタント制度の経費の補助を行いました。

05

学生生活支援・修学支援 / 学生参考用図書 購入費への支援

在学生の教育・研究活動の充実に供するため、中央館・医学部分館・創造工学部分館・農学部分館に配置する図書資料等(追録及び紙媒体以外のものも含む)計562冊の購入経費を支援しました。

06

学生生活支援・修学支援 / コミュニケーション支援アプリ 「UDトークアプリ」を契約

聴覚障害のある学生の修学支援として、会話の見える化アプリ「UDトークアプリ」を年間契約しました。このアプリは音声を文字情報に変換し、なおかつその情報を同時に修正ができるアプリであるため、聴覚に障害のある学生が授業等を受ける際に教員の音声文字に変換し、ピア・サポーターの学生がその場で専門性の高い単語等の誤変換を修正することで、障害のある学生の授業の理解が高まっています。

また、個別の面談などでも「UDトーク」を使用して面談を行うことで情報伝達の速度と正確性が高まり、より効率的に対話することができるようになります。

※この支援は、学生支援センター バリアフリー支援室を通じて実施しました。

07

学生生活支援・修学支援 / 抗原テストキットの購入

保健管理センターに来所する学生の皆さんに対応するため、昨年度に引き続き、抗原定性検査キットを購入し、保健管理センターに提供しました。

今年度から新型コロナウイルスに加え季節性インフルエンザの同時検査が可能な新型コロナウイルス及びインフルエンザウイルス抗原定性検査キットを購入し、学生の健康と安全を守るとともに、感染拡大の防止策を講じました。

※抗原定性検査キットの使用等については、保健管理センターが決定・判断します。

08

海外留学支援 / 協定校留学プログラム 参加者への支援 (P8・P9掲載)

香川大学の協定校(西オーストラリア、ブルネイ・ダルサラーム大学、マレーシア)へのプロ

グラム参加者への支援を行います。円安をはじめ留学費用の増加が海外留学の大きな経済的な障壁となっていること、海外留学への参加意欲が高いにも関わらず、コロナ禍の影響、経済的な事由により断念している学生の海外渡航を後押しすべく、昨年度より支援を拡大しました。

※支援の内容については、インターナショナルオフィスの審査により決定します。

09

国際シンポジウム支援 / 3大学(香川大学・チェンマイ 大学・国立嘉義大学) 合同シンポジウムを支援

令和5年8月29日～31日の期間、香川大学・チェンマイ大学(タイ王国)・国立嘉義大学(台湾)合同シンポジウム「Second Trilateral Symposium on SDGs」を開催しました。このシンポジウムは、香川大学、チェンマイ大学及び国立嘉義大学間の研究交流及び学生交流の一層の推進を図り、SDGsへの貢献に資することを目的とし、今後、益々、3大学間の学術交流及び人的交流が活性化されることが期待されます。

10

就職活動支援 / 全学年の就活を応援！ WEB版「香川大学 就職手帳2023」 制作を支援

今年度も引き続き、就職活動に必要な事項をまとめたWEB版「2023年度版就職手帳」制作を支援しました。全学年が利用できる就職活動のポイントを分かりやすく紹介する「就職活動編」や大学オリジナルコンテンツの「大学概要」、「キャリア支援センター案内」などをご覧いただけます。就職手帳は全学年が利用できるようになっています。

また、今年度からは「外国人留学生編」として、英語表記・日本語表記を付けて、日本独自の慣習や具体的な活動方法まで紹介するコンテンツを設けました。

就職活動前の学生さんも、就職活動に向けて広くご利用いただけるサイトですので、ぜひご利用ください。

11

環境整備支援 / 校内美化を実施しました

学生の皆さんが授業や課外活動等に専念できるように、幸町南グラウンド、オリブSTUDENTハウス各周辺の環境整備を行いました。夏の間に伸びた雑草を、施工業者の方に丁寧に除草工事をしていただき、学生が課外活動に専念できるように整備しました。今後も毎年実施していく予定です。

12

災害対策支援 / 学生の安全を守ります

学生の安全を確保するため、災害対策用Starlinkを導入し、BCPや災害対策として、大規模災害時の通信ネットワークの整備を支援しました。

10

その他 /

13

令和5年度理事会及び 総会を開催

令和5年度の校友会理事会を6月28日に開催しました。

理事会では、「役員等の改選」、「令和4年度事業報告及び収支決算」及び「令和5年度事業計画及び収支予算」について議題を審議し、了承されました。

総会は、ホームカミングデー開催日に合わせて、10月28日に開催しました。議事は、上田会長の進行により、6月の理事会での議題をあらためて審議し、了承されました。理事を務めていただいている各同窓会の会長や学部長の先生方、卒業生や教職員の皆様にご参加いただきました。

同窓会紹介

香川大学には学部ごとに同窓会があり、現在は8団体が活動しています。

医学部医学科 讃樹会 SANJUKAI



「讃樹会」とは、瀬戸内海を臨み高松市内を一望できる三木町の小高い丘に医学部があります。昭和61年、香川医科大学第1期生の卒業と同時に同窓会が設立され、約4000名の同窓生が全国で医療に携わり、日々研鑽に励んでいます。会員は、香川大学(旧香川医科大学を含む)医学部医学科卒業生、医学部現職教員他からなる特別会員、賛助会員、名誉会員、準会員(在学生)等で構成されています。

本会は、会員相互の親睦と、その向上をはかるとともに、母校の発展、及び学術の発展に尽くすことを目的とするもので、学術・国際留学への助成、準会員・研修医への支援、支部会・懇親会への後援、地域貢献など、本会の目的を達成するために必要とされる事業を運営し、年2回発行する会報やSNSにて全国の会員に向けて発信しています。

讃樹会(さんじゅかい)は、会員から募集を行い投票によって2002年(平成14年)に決定した名称で、香川県の書道家故小森秀雲先生に揮毫いただいた書は、力強く美しい筆致から本会のシンボリックな存在となっています。

教育学部	法学部・経済学部	医学部看護学科	医学部
松楠会 SYOUNANKAI	又信会 YUSHINKAI	木蓮会 MOKURENKAI	言の葉会 KOTONOHAKAI
創造工学部 創発科学研究所	農学部	地域マネジメント 研究科	次号は
緑晴会 RYOKUSEIKAI	池戸会 IKENOBOKAI	地域マネジメント 研究科同窓会	創造工学部 創発科学研究所
			「緑晴会」に スポットを 当てます!!

校友会会費納入のお願い

会員の皆さまからの会費を財源として支援事業を実施しています。未納の方は、校友会事務局までご一報ください。専用の払込票をお送りします。

正会員	会費 20,000円 (終身会費)
	卒業生及び修了生(過去に在学した者を含む)、各同窓会会員、役員及び教職員(現職、退職)
準会員 在学生	会費 20,000円 (終身会費※)
	※在学中に準会費として会費を納めた方は、卒業後は正会員となり、改めて会費を納める必要はありません。
賛助 会員	会費 10,000円 (一口)
	個人・企業・団体(目的に賛同いただける個人・法人等)

住所変更のご連絡について
校友会からの会報やイベント等の情報を確実にお手元にお届けするために、卒業等により住所等の連絡先を変更された場合には必ず変更の登録をお願いします。

個人情報の取り扱いについて
香川大学校友会では、個人情報について適切な方法で取得・管理しており、会報送付など校友会からのご連絡以外での利用は行いません。なお、利用目的の範囲内で、香川大学または各同窓会に、取得した個人情報を提供することがあります。

ご連絡はこちら

香川大学校友会 会員情報変更

検索

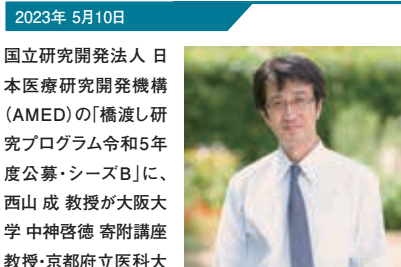


KAGAWA UNIVERSITY NEWS & TOPICS 2023～

香川大学の情報をご紹介します。



高尾英邦教授 (創造工学部機械システム工学領域／微細構造デバイス統合研究センター長) が、令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において「科学技術賞 研究部門」を受賞しました。高尾教授が行った「高分解能触覚センシングによる手触り感計測の先駆的研究」が我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は発明であると評価されました。



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) の「橋渡し研究プログラム令和5年度公募・シーズB」に、西山 成 教授が大阪大学 中神啓徳 寄附講座教授・京都府立医科大学 石川秀樹 特任教授と共同で、橋渡し研究支援機関岡山大学を通じて提案した研究開発課題「家族性大腸腺腫症に対する治療ワクチンの開発」が採択されました。



瀬戸内圏研究センターの多田邦尚センター長が、日本珪藻学会2023年度論文賞を受賞しました。本学会論文賞は、日本珪藻学会が発刊する学会誌「DIATOM」に当該年度を含む過去2年間に優秀な学術的研究成果、今後の発展が期待される学術的研究を発表した会員に対して授与されるものです。



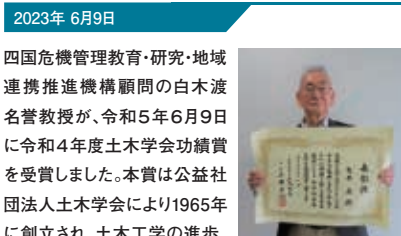
沖縄産業支援センターで第200回ヒューマンインタフェース学会研究会が開催され、造形・メディアデザインコースの教員2名 (北村尊義、大場晴夫) と学生5名 (吉田美佳、橋高佐和子、桑村風花、星隈泉徳、山本真椰) がコミュニケーション支援研究賞を受賞しました。コミュニケーション支援専門研究委員会 (SIGCE) 主催の研究会で発表された研究の内、優れた研究に対し授与されます。



国際希少糖研究教育機構が、第12回地域産業支援プログラム表彰事業 (イノベーションネットアワード2023) の文部科学大臣賞を受賞しました。これは、食品分野においては、現在約3,500の食品に希少糖が利用されるなどの大きな成果をあげていること、また、食品分野以外の医療・農業・工業等の新規機能性素材として希少糖を用いることで、産学官連携による地域への企業誘致や産業振興を目指していることが評価されたものです。 (全国イノベーション推進機関ネットワークHPから引用)



令和5年度「電波の日・情報通信月間」記念式典が、松山市で開催され、香川大学情報化推進統括拠点 米谷雄介准教授が、「地域課題解決に資するデジタル技術やデータの活用に関する研究に取り組み、自治体等への支援やデジタル人材の育成等に尽力されとともに、5G等デジタル実装に関する産学官の連携を促進するなど地域のデジタル活用推進に多大な貢献をした」ことにより、四国総合通信局長表彰を受賞いたしました。



四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構顧問の白木渡名誉教授が、令和5年6月9日に令和4年度土木学会功績賞を受賞しました。本賞は公益社団法人土木学会により1965年に創立され、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められたものに対して授与されます。



西日本横断サイバーセキュリティ・グランプリが、大阪など西日本エリアの5会場とオンラインで総務省四国通信局により開催され、香川大学創造工学部情報システム・セキュリティコースの濱渦ゆりさんと情報通信コースの三井順剛さんが参加し、セキュリティクイズに取り組んだ他、セキュリティの難題をPCを駆使してチームで解くCTF (Capture The Flag) コンテストにおいて対面会場で準優勝しました。



東京の渋谷ストリームホールにて心理的安全性 AWARD2023が開催され、本学創造工学部開設科目「ロジカル思考演習」の担当教員チーム (山中隆史、北村尊義、勝又暢久、竹内謙善、李セロン) の取り組みが最高位のプラチナリングを受賞しました。「心理的安全性 AWARD」は、心理的に安全で効果的なチーム・組織づくりへの取り組みを表彰するアワードで、「積極的な学びの姿勢に不安を感じさせない大学初年次教育」に向けた担当教員らの活動と成果が高く評価されました。



G7香川・高松都市大臣会合の一環として、斉藤国土交通大臣へ本学学生がまとめた提言書を手交しました。提言書は、令和5年6月3日、「持続可能な都市を目指して」をテーマに開催された「学生サミット in 香川・高松」において出た意見をまとめたものです。



令和5年8月29日～31日の3日間、本学にて第2回香川大学・チェンマイ大学・国立嘉義大学合同シンポジウム「Second Trilateral Symposium on SDGs- New Strategic Approaches Towards SDGs Beyond the COVID-19 Pandemic-」を開催しました。このシンポジウムは、香川大学、チェンマイ大学及び国立嘉義大学間の研究交流及び学生交流の一層の推進を図り、SDGsへの貢献に資することを目的としております。このシンポジウムを機に、今後、3大学間の学術交流及び人的交流が益々活性化されることが期待されます。



末永慶寛教授 (創造工学部教授、創造工学部長、創発科学研究科長) が、第16回海洋立国推進功労者表彰 (内閣総理大臣賞)、「海洋に関する顕著な功績」分野の「海洋に関する科学技術振興」部門を受賞しました。末永教授は、8月29日に総理官邸大ホールで行われた表彰式に出席し、表彰状及びメダルを授与されました。



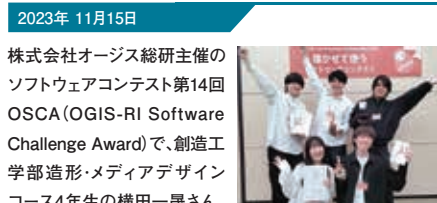
香川大学さぬき再犯防止プロジェクトPROS (Prevent Re-Offense Sanuki) が、内閣総理大臣から令和5年安全安心なまちづくり関係功労者として表彰されました。本表彰は、犯罪に強い社会の実現のため、安全安心なまちづくりの推進に関し、顕著な功績又は功労のあった個人又は団体を顕彰し、もって安全安心なまちづくりに関する優れた取組を広く普及することを目的としているものです。これまでのPROS (プロス) の再犯防止等に関する活動が高く評価され、受賞となりました。



高尾英邦教授 (創造工学部機械システム工学領域／微細構造デバイス統合研究センター長) が推進するJST-CRESTプロジェクトの成果が「CEATEC AWARD 2023」において「デバイス部門グランプリ」を受賞しました。人間が感じる手触りを数値化・可視化する全く新しい領域の触覚センシングシステムが評価されました。



木末慶寛教授 (創造工学部教授、創造工学部長、創発科学研究科長) がプロジェクトリーダーを務める研究プロジェクト「瀬戸内再生のための「人×技術×海」マッチング共創拠点」が、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) が公募する、令和5年度「共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT) [地域共創分野・育成型]」に採択されました。



株式会社オーグス総研主催のソフトウェアコンテスト第14回 OSCA (OGIS-RI Software Challenge Award) で、創造工学部造形・メディアデザインコース4年生の横田一晟さん、新田宗史さん、奥野唯織さんらのチームDC.DC.が1位の最優秀賞を、3年生の吉森日菜さん、高橋怜生さんらのチームSoliが2位のゲスト審査員賞を受賞しました。



四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構副機構長/地域強靱化研究センター長の金田 義行特任教授が代表研究責任者を務める研究「AI開発で生み出す次世代型復興モデルの構築を行う研究開発～高松市をモデル地域とした取り組み～」が、国立研究開発法人情報通信研究機構の委託研究に採択されました。



臨床遺伝ゲノム診療科 十川麗美特命助教が「2023年度 日本サイエンスコミュニケーション協会 奨励賞」を受賞しました。



学長応接室において学長表彰式を実施しました。これは、学術研究活動や課外活動、社会活動において優秀な功績を収めた学生・学生団体を称えるもので、今回は「さぬき再犯防止プロジェクトPROS」が表彰を受けました。



文部科学省及び日本学術振興会 (JSPS) が実施する「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)」に、東京藝術大学と本学の連携による構想が採択されました。本学はこの事業を通して、代表大学である東京藝術大学と連携し、「アートと科学技術による「心の豊かさ」を根幹としたイノベーション創出と地域に根差した課題解決の広域展開」を推進していきます。



四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構は、一般社団法人減災サステナブル技術協会「防災・減災×サステナブル大賞/減災×サステナブルアワード/最優秀賞」受賞が決定しました。



薬理学研究室の北田研人助教が第33回日本循環薬理学会にてYoung Investigator Awardを受賞しました。同賞は40歳未満の発表者のうち、特に優れた発表演題に贈呈されるものです。発表演題「水分摂取不足は、AT1受容体を介して腎交感神経活動の亢進と血圧上昇を惹起する」

勲章受賞者

2023年 4月29日

令和5年春の叙勲受章者
上村貞美名誉教授 (元香川大学法学部長)
藤井昭洋名誉教授 (元香川大学教育学部教授)

2023年 11月3日

令和5年秋の叙勲受章者
大出孝祐名誉教授 (元香川大学教育学部教授)

連携協定締結

2023年 9月26日

香川大学とさぬき市が地域医療に特化した連携協定

香川大学とさぬき市は、地域医療連携の推進及び地域医療の発展に寄与することを目的とし、連携・協定を締結しました。地域医療を志す人材の養成・確保並びに地域医療に係る研究・開発を積極的に推進し、さぬき市が行う様々な事業や多面的な機能を活かした地域医療の活性化を進め、教育・研究・医療振興において幅広い連携が進展するものと期待されます。

2023年 10月11日

高度な医療人養成のための地域及び多職種連携型医療教育研究の三大学共同実施に関する協定を締結

香川大学、徳島文理大学、香川県立保健医療大学の三大学間で「高度な医療人養成のための地域及び多職種連携型医療教育研究の三大学共同実施に関する協定」を締結しました。本学医学部の改革 (臨床心理学科、大学院各3専攻の設置・改組等)、徳島文理大学の改革 (香川キャンパスに保健福祉学部を設置等)、及び香川県立保健医療大学の改革 (大学院看護学専攻・臨床検査学専攻の設置等) に伴い、多職種連携医療教育研究を強化するため、新たな協定を締結することとなりました。

記念式典

2023年 7月15日

農学部開学120周年記念式典



1903年に木田郡立乙種農学校として設立された香川大学農学部は、120周年を迎えました。これを記念して、2023年7月15日 (土) に盛大な式典が開催されました。

2023年 11月11日

経済学部創立100周年記念式典



香川大学経済学部は、大正12年 (1923年) 12月10日、第12高等商業学校官制の制定に基づき、官立高松高等商業学校として創立されて以来、100周年を迎えました。これを記念して、式典が盛大に行われました。



歓迎式典



学生活動報告(PROS)



学生活動報告(STEEP)



歓迎式典



歓迎式典



上田会長(学長)



歓迎式典



キャンパスツアー(またたび)



キャンパスツアー(またたび)

HOME
COMING
DAY 2023

\\ 4年ぶりに対面で開催! \\
第9回 香川大学
ホームカミングデー



記念講演会(長谷川特任教授)



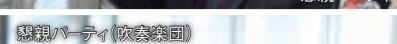
記念撮影



懇親パーティ



懇親パーティ



懇親パーティ(吹奏楽団)



懇親パーティ



校友カフェ(学生スタッフ)



校友カフェ(ベーカリーカフェ空海)



懇親パーティ(JAZZ研究会Birdland)



懇親パーティ(吹奏楽団)



懇親パーティ(お楽しみ抽選会)



懇親パーティ



懇親パーティ



懇親パーティ(学生スタッフ)



2



3



4



1



1



1



1

\\ 各キャンパスに賑わいが戻りました。 \\

大学祭 2023

- ①10月27~29日 第75回香川大学祭(幸町キャンパス)
- ②10月6~8日 第44回香川大学医学部祭(三木町医学部キャンパス)
- ③10月28日 第2回香川大学創造工学部
讃工祭&オープンキャンパス(林町キャンパス)
- ④11月3日 収穫祭&オープンキャンパス(三木町農学部キャンパス)



1



1

\\ 学長杯 \\

スポーツ フェスティバル2023

Sports Festival 2023





滝川祐子特命助教、Benjamin Douglas Johnson特命助教に聞いていただきました。

学術交流協定校留学体験座談会

世界中がキャンパスに!!

最初の一步を踏み出す勇気が新しい世界へのパスポート



校友会が支援した協定校留学プログラムに参加した学生に体験談を聞きました。

世界のことをより深く知りたい・学びたい! 校友会では、そんな思いに応えるべく海外留学の機会を大学を通じて支援しています。皆さんも参加してみませんか?



教育学部3年 宇野 紗彩(うの さやか)
7月22日～8月13日 クライストチャーチ工科大学

中川 私もバテン先生の英語の授業をきっかけに、思い切って決断。1年の時にネクストプログラムで磨いた英語力を頼りに、短い準備期間でバタバタ旅立ちましたが、協定校を選んだおかげで不安は少なく、楽しく過ごしました。

三谷 ネクストプログラムのグローバル人材育成コースの先生方に「海外経験がないなら、長期留学を志す前に短期で海外を知っていた方がいい」と勧めていただき、英語圏の生活の雰囲気をつかむのが最大の目的。協定校は金銭的なサポートがあって、学生にとって大きいメリットです。

豊田 まずは留学先の候補がカナダがオーストラリアで香川大学の協定校にあったのがオーストラリアだったからというのが純粋な理由です。ずっと小さい頃から海外、特に英語圏に行きどんな人がいてどんな景色なのか見てみたいと思っていました。また、私は都会が苦手なのでパースというのどかな土地柄や文化がぴったりでした。

留学費用は校友会のサポートもあったそうですね。全員 とても助かりました!

現地の生活や印象的な思い出は?

三谷 ホストマザーが連れて行ってくれた教会は、バンドがいてみんなで歌を歌って、ほとんどライブ会場。勉強会にも参加し、固定観念を覆されながらいろいろ吸収しました。ホストマザーはすごい倹約家で生活の違いに戸惑うことも多かったけど、とてもお世話になりました。日本に帰ってからの日常生活にもいい意味で影響が出始めて、何か新しいことを始める際に物怖じしなくなった実感があります。

谷口 電車やバスが日本みたいに自動でドアが開いたり駅名をアナウンスしないことに驚きました。ボーッとしていたら目的地を通り過ぎて迷子になったり…。ホストマザーは社交的で友達が多く、日曜はいつもパーティ、平日の夜もワインを飲みながら話し込みました。最初は英語で喋ることに抵抗感があったけれど、それでは何も伝わらないと必死で頑張ったおかげで、帰国後の英語の授業では積極的に発言でき、自分でも驚いています。



創造工学部2年 谷口 凜菜(たにぐち りんな)
8月21日～9月22日 西オーストラリア大学

宇野 私は語学学校が休みの時に一人旅をしました。今までは引込み思案でしたが、現地で学んだ「自分から話す大切さ」を旅行という場で実践できた達成感があります。驚いたのは、カレーにお箸が添えられたこと。「日本人もカレーはお箸で食べない」と説明したらホストファミリーは「知らなかった!」って。文化の違いは難しいこともあるけど、面白いですね。

中川 8月のニュージーランドは冬。部屋には電気毛布しかなく、ずっと布団にくるまっていた。時々薪ストーブがある温かいリビングで、ホストマザーと一緒にドラマの配信を観たりして。心配性すぎて前に進めないことが多かった私ですが、たった一ヶ月でも「英語を聞く・喋るしかない」状況に身を置いたおかげで成長できたと思います。



法学部2年 中川 実優(なかがわ みゆ)
8月6日～9月3日 クライストチャーチ工科大学

林 私は一緒に行った4人で軒家をシェアして日本人だけで生活しましたが、コロラド州立大には香川大に留学していた人たちがいたので、みんなでごはんに行ったり、家に招待してもらったりするのが楽しかった。前向きに挑戦する気持ちが芽生え、帰国後は県内の日本語教室にボランティアとして参加しています。

豊田 オーストラリアのお酒の文化には何度も驚かされました。オーストラリアの人は曜日や時間に関係なく毎日お酒を飲んでいました。日本のように泥酔したりフラフラになるまで飲むのではなくお酒を楽しんでいるという感覚でした。故に飲酒運転も少量だったら合法で、ホストファミリーがビール片手に運転した時はとてもびっくりしたし少し不安にもなりました。

今後の夢や目標と、留学してみたい人に向けてメッセージを。

中川 将来の夢は航空管制官。英語を使う職業だから、長期留学を前提にオンライン英会話や現地ですきた友達とのチャットで勉強を続けます。私も当初は留学ってそもそも何をしたらいいのか漠然と不安でしたが、死ぬ以外は怖くないくらいの気持ちで、やる気があるうちにとりあえず行ってみる。手を差し伸べてくれる人が必ずいます。

宇野 私は小学校教員を目指していて、外国語を教える際にはアメリカに限らずいろんな文化に触れる目線を持って教育する先生になりたい。留学は、学生のうちなら単位交換や、短期留学という選択肢があります。私は「一人で行く」ことを重視しました。一人で何かを決定して実行しやすいのも学生ならではの。ぜひ挑戦してください。

林 今ボランティアとして参加している日本語教室だけでなく、いろんなスタイルの教室を体験しながら日本語教師の仕事を知っていき

い。初めての海外は私もすごく不安だったけど、温かい人たちがたくさんいて、困った時には声を掛けて助けてくれます。行きたいという気持ちがあれば、迷わず行くのをおすすめします。

谷口 私はまだ将来の道を決めていませんが、学生のうちにヨーロッパ、カナダ、アジアを旅して、もっと違う景色や世界観を知りたい。一度海外に出れば、次から抵抗感が消えます。一歩踏み出せば何も怖いことはありません。



法学部1年 三谷 祐人(みたに ゆうと)
8月21日～9月22日 西オーストラリア大学

三谷 映画みたいな華やかなイメージが僕にもありましたが、実際は学生がやるべきことは日本も海外も同じ、勉強です。変に気負いすぎず、しかし準備はしっかりと。さまざまな不安も、たいがいのことは杞憂で終わります。ただし使った時間は帰って来ないから、時間に見合うだけのリターンを得られるのか、一回冷静に考えて、それでも行きたいと思ったなら、全力で最高の経験にしましょう。



経済学部2年 豊田 優唯(とよた ゆうい)
8月21日～9月22日 西オーストラリア大学

豊田 私はもともとワーキングホリデー(ワーホリ)に興味がありました。しかし実際に海外に行ってみて、その一歩先の「海外で働いて自立した生活を送る」という目標が出来ました。現地でワーホリをしている方にもたくさんお会いし、お話を聞かせていただきました。その上で、私には合っていないと感じました。ワーホリに行った後の人生設計が不明瞭で時間の無駄だと思ったからです。

迷っていて時間に余裕があるなら行くことをお勧めします。留学と一言でいっても1週間程度で終わるものや1年かかるものがあります。自分の目的や性格に合わせて調べてみると良いと思います。なにより人生で1番多感で学びの多い年齢で海外に行くと今までにない価値観の人々に出会い、たくさん考えさせられます。日本だと気づかなかったことや考えもしなかったことに出会えるのでは是非おすすめしたいです。



さぬき再犯防止プロジェクト PROS



中間報告



元受刑者に寄り添い、再犯を防ぐ
「生きづらさ」を受け止め、
再出発できる社会へ

さぬき再犯防止プロジェクト(Prevent-Re-Offense Sanuki)通称PROSは、安心安全で暮らしやすい社会にすることを目的に、再犯防止活動を行っています。再犯の原因には、住居や職などの「居場所と出番」がないことや、生きづらさを抱えた人の社会的孤立があるとされています。そこでPROSでは、主に高齢や障害を抱えた刑務所出所者の「居場所と出番」づくりのお手伝いのため、定期的な交流会を主たる活動としています。参加者はPROSネームというニックネームを用いるなど、個人情報の保護も徹底しています。また、顧問の平野美紀教授をはじめとし、法務省や福祉分野の関係機関の方、精神科医師や弁護士等の専門家のご協力をいただき、再犯防止に関する幅広い知識を学ぶ研修会も実施しています。さらに、生きづらさを抱えた人の現状を、地域の方や多くの学生にも知ってもらうため、映画上映会やシンポジウム、大学祭での啓発活動も行っています。

三俣診療班

北アルプスの三俣山荘(黒部川源流近くの
標高2550メートルにある山小屋)に
隣接した三俣診療所での活動

※2012年に放送されたドラマ「サマーレスキュー
～天空の診療所～」のモデルとなった岡山大学と
香川大学の学生がボランティアで運営する活動です

私たち三俣診療班は医学部のサークルで、夏の登山シーズンに北アルプスにある三俣山荘に併設しております診療所にて、岡山大学の医学部生と合同で医療ボランティアをしています。それに向け、他のシーズンでは中四国の山々で練習登山に行き活動しております。

夏の北アルプスには毎年多くの登山客が訪れ、毎日のように満席となる山小屋もあるほどです。その中で、登山経験や歴にかかわらず、怪我を負ってしまったり、体調不良になってしまったりする方も少なくありません。三俣診療所はそのような方に処置や医療行為、はたまた下界にヘリで搬送など行えるように岡山大学主導で開設されました。そこに本学の学生も参加させていただき、現在に至っています。22、23年度はパンデミックも収束に向かい、感染症対策を考慮しつつ運営に参加しました。本医学部からは20名弱の学生が診療所へ派遣されております。今後とも夏のハイシーズンの安全な山行に寄与することができるよう部員一同努めます。

SNSでも情報発信を行っているので、ぜひご覧ください!!

Facebook



Instagram

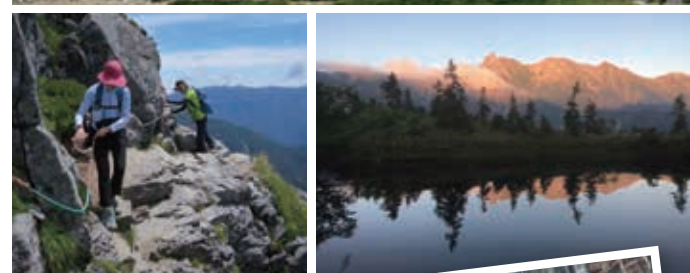


中間報告



KADAI

～挑戦者たち～
活動には知られざるドラマが



学生プロジェクト / project

香川大生だからこそできる活動を紹介します!

棚田発!

日本のこころプロジェクト(棚田の会)

「日本の棚田 100 選」にも選ばれた小豆島の中山千枚田
棚田の保全活動を通じて、美しい風景と伝統文化の
継承に貢献したい

私たち棚田発!日本のこころプロジェクトは、小豆島中山地区で行われた農学部SUIJIプログラムの経験より、棚田の保全に貢献したいという思いから2013年に始まったプロジェクトです。

耕作作業だけでなく地域の伝統文化維持も目的としており、田植えや稲刈りのほか、棚田周辺の水路掃除や虫送り、農村歌舞伎等の地域行事にも積極的に参加しています。その他にも小学生との田植え体験や稲刈り体験、田植え前の田んぼで行われた泥んこ遊びの運営にも携わりました。

また、昨年度より耕作面積が増え、手作業だけでなく機械を用いた本格的な農作業を行うことができたほか、今年度農学部で開催された収穫祭では、収穫されたお米を使ったおにぎりの提供等を行い、多くの人にこの活動を知ってもらうことができました。

新たに農学部の授業との連携も始まり、同年代の多くの学生が実際に稲刈りの作業を体験し、私達の活動に興味を持ってもらう良い機会となりました。

学生ESDプロジェクト SteeP (ステップ)

香川から世界へ!エコな社会を目指して～
地域とともに環境問題に取り組む

私たち香川大学ESDプロジェクトSteePは、2017年に発足したSDGsや環境問題をテーマにする学生プロジェクトです。「SteeP」の3つの「e」は「environment(環境)」「energy(エネルギー)」「education(教育)」を表しており、この3つのeについて一歩ずつ取り組みながら活動していくことを表現しています。メンバー全員が香川県地球温暖化防止活動推進員に任命されており、海ゴミ拾い、環境教育活動、SDGsに取り組んでいる企業への取材などを行っています。なかでもフードドライブ活動は、毎月第3土曜日にコミュニティセンターや商店街に赴いて実施したり、香川県庁や高松市役所と協力してフードドライブウィークを行ったりしています。現在までに合計で28回行い、約3000kgの食品ロスに貢献しており、SteePを代表する活動になっています。「香川から世界へ!エコな社会を目指して」を活動目標として掲げ、環境問題を知り考えるきっかけの場作りになることを目的として、今後も地域に貢献していきます。

SNSでも情報発信を行っているので、ぜひご覧ください!!

Facebook



Instagram



X(旧Twitter)



Youtube



中間報告



SNSでも情報発信を行っているので、ぜひご覧ください!!

Instagram



X(旧Twitter)



中間報告



吹奏楽団は先輩後輩関係なく毎週楽しく活動しています。初心者の方ももちろん大歓迎です！音楽が大好きな人、音楽を始めてみたい人など思っている人！是非吹奏楽団に入って私たちと一緒に活動してみませんか？



写真は12月16日(土)にレガザムホール 小ホールで開催された第51回定期演奏会の様子

吹奏楽団

こんにちは！香川大学吹奏楽団です！
私たちは現在大学1年生から4年生までを含め男子19名・女子26名の計45名で構成されております。サマーコンサート、定期演奏会などの演奏会の開催を始め、地域の方や施設、団体からの依頼をいただき演奏をさせていただいております。また、団内アンサンブルや入団式・卒団式に加え中四国の大学との交流イベントへの参加など幅広く活動を行っています。私たちの演奏を聞いてくださる方々に良い音楽をお届けできるよう日々練習に励んでおります。応援よろしくお願い致します。

SNSでも情報発信を行なっているので、ぜひご覧ください！！



ひばり

ひばり(旧：児童問題研究会 ひばり)は昭和58年に設立されたボランティアサークルです。現在の活動はおひさま教室と小児病棟支援の大きく2つです。おひさま教室は、自閉症や発達障害のある子どもたちと月に一度、プチ遠足に行ったり、クッキングをしたりなど様々な経験をサポートする活動です。もうひとつの活動は、NPO法人未来ISSEY様と連携しての病気をかかえる子どもやそのきょうだい児にむけた遊びと学びの支援です。病棟の子どもたちや自宅での療養中の子どもたちに向けてオンラインでプチイベントを行ったり、ニーズに応じて学習支援を行ったりしています。レモネードスタンドのお手伝いなども行っています。「子どもが好き」という理由で活動を始めた部員が多いですが、活動を重ねる中で、子どもたちから学びや気づきをもらうことは多く、将来、医療従事者になる上で貴重な経験をさせてもらっていると感じています。

子どもが好き！子どもとの関わり方を学びたい！そんな人たちが集まったボランティアサークルです！自由参加なので運動部とのかけもちもOK！少しでも気になった方は是非一度参加してください。



おひさま教室(芋掘り遠足の様子)



ハロウィンパーティー 集合写真



遠隔での小児病棟への工作イベント実施の様子



未来ISSEYさん主催レモネードスタンドお手伝い



SNSでも情報発信を行なっているので、ぜひご覧ください！！

各サークルの詳細はこちらをご覧ください。
https://www.kagawa-u.ac.jp/campus-life/student_life/extracurricular-info/circle-list/



STUDENT GROUP

学生団体紹介



SEcurity Team Of Kagawa University

SETOKU

サイバー犯罪抑止へ啓発や通報

香川県のサイバー空間の安全安心に貢献！

「SETOKU」とは(SEcurity Team Of Kagawa University)の略称で、2021年11月11日に発足しました。私たちは、サイバーセキュリティ分野における安全・安心な地域社会の実現を目的として① 犯罪被害防止のための教育活動 ② 広報啓発活動 ③ サイバー空間の浄化活動に取り組んでいます。日々の活動を行う上で、包括的連携・協力に関する協定により、香川大学、香川県警察からバックアップを頂き、2022年5月16日に香川県警察よりサイバー防犯活動に関する委嘱を受けました。さらに、日本サイバー犯罪対策センター(JC3)、トレンドマイクロ株式会社などの様々な企業からもご支援頂いています。近年、インターネット上における有害情報の氾濫や詐欺サイトによる被害は社会問題となり、サイバー空間の脅威は増加しています。そのため、小学校でのリテラシー教育や詐欺サイトの閉鎖を通して、被害を未然に防いでいます。多くの人に活動を知ってもらい、地域全体のリテラシー力を高めていきたいです。

SNSでも情報発信を行なっているので、ぜひご覧ください！！



UNIVERSITY ANNOUNCEMENTS

大学からのお知らせ

お友達追加、フォロー、チャンネル登録してね
香川大学の最新情報をSNSで発信しています



香川大学支援基金

香川大学支援基金では、皆様からいただいたご寄付を、香川大学が取り組むデザイン思考能力・リスクマネジメント能力を有するイノベーション人材を育成するための教育施設・学修環境の整備を進めており、基金の充実が必要となっております。つきましては、教育・研究・社会貢献への取組、人材育成の取組、取り巻く状況等をご理解いただき、何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附の方法が選べます

■クレジットカードや振込用紙など寄附方法をお選びいただけます。

ご利用いただけるクレジットカードの種類は支援基金のホームページをご覧ください。

香川大学から感謝を込めて

■ご寄附いただいた方全員

ご了承を得て、ご芳名を大学ホームページ等に掲載いたします。

■個人10万円以上、法人・団体30万円以上寄附された方

感謝状と記念品の贈呈／銘板による顕彰
ご芳名の銘板を学内に掲示し、末永く顕彰いたします。

※ご支援いただいた方は税制上優遇措置が受けられます。



詳しくは香川大学支援基金ホームページ
<https://www.kagawa-u.ac.jp/kikin/>

基金により取り組む事業

大学の集積した「知」を生かした地域貢献の推進

地域の拠点大学として、大学の「知」を生かした、地域の文化振興、産業の活性化、地域の子どもの育成や健康づくりなどを推進するため、セミナーやシンポジウムなどの生涯学習の提供、希少糖などの特色ある研究の推進による新たな地域イノベーションの創出、子どもたちを対象としたイベントなどに支援します。

21世紀の国際社会で活躍できるグローバル人材の育成

グローバル化の進む地域社会の課題解決に貢献できる人材の育成を目指し、学生の海外留学や海外での学会発表、調査研究活動などの援助を行います。また、本学に受け入れている外国人留学生への支援や国際寮などの環境整備にも取り組んでいます。

経済的に困窮している学生への修学支援奨学金事業

経済的な理由により修学に困難がある学生で、勉学意欲がある者に奨学金を支給します。これにより、経済的に困窮している学生が勉学に集中できる環境をつくります。

若手研究者に対する研究助成・能力向上のためのへの研究等支援事業

イノベーション創出の中核となる若手研究者、特に学生又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等支援を目的としております。自立した研究者として行う研究活動及び活動報告に要する費用、異分野研究者との交流支援などに係る費用等を負担し、イノベーション創出の種火となるよう若手研究者を支援するものです。

医学部開講50周年記念事業(新設)

旧香川医科大学が、1980年(昭和53年)4月に第1期生を迎えてから2030年(令和12年)で50年目となることから、2030年度(令和12年度)の医学部開講50周年へむけて、将来の医療界を担う学生のために医学部キャンパスの教育研究設備や環境整備を行います。





この春卒業を迎える 創発科学研究科1期生紹介

創発科学研究科創発科学専攻
建築学ユニット

綱島 芽吹 内定先 東急設計コンサルタント

父親が建築に携わっていることから幼少期より建築に興味を持ち、創造工学部の建築・都市環境コースに進学しました。3年後期から配属された研究室では、伝統木造建物の構造性能に関する研究を行っており、建築構造に興味を持ったことがきっかけで大学院への進学を決意しました。在学中にはコロナの流行もありましたが、家族、友人、先生など多くの人に支えられ、充実した6年間を過ごすことができました。

進路については、大学1年生の時から、設計がやってみたい、とぼんやり考えていました。授業や研究を通じて、地震大国日本で建物の構造は人々の暮らしの安全に直結することを実感し、構造設計者を目指して設計事務所に就職を決めました。構造設計は責任の大きい仕事のため自分に務まるのか悩んだこともありましたが、今は社会人として新しいステージに進むことが楽しみです。より良い街づくりに貢献できるような技術者になることが、今の私の目標です。

後輩へのメッセージ 大学生活は一瞬で終わってしまうので、どんな経験も大切にしてほしいと思います。頑張ってください。

創発科学研究科創発科学専攻
危機管理学ユニット

田中 健太郎 内定先 倉敷市役所

私の大学院生活の思い出は4か月間、南フランスにあるアレス鉱山大学に留学したこと。香川大学とアレス鉱山大学が協定校を締結してから、私が初めての交換留学生として学びに行きました。そのため人間関係はゼロからのスタートとなり、文化や言語が異なる学生が世界各国から集まっている中で、私は馴染めるか不安でした。しかし、現地では日本のアニメや漫画を知っている学生が多く、日本人である私にたくさん話しかけてくれ、すぐに打ち解けることができました。その時、私は初めて日本の文化を誇らしく感じました。

このことから、私は日本の文化や伝統の素晴らしさを実感し、より日本を魅力あるものにしたいと思い、卒業後は日本の文化や伝統を取り入れた魅力あふれる街づくりに携わろうと考えています。

そして、留学を通してできた友人は私にとって大きな宝物です。今後も彼らと連絡を取り合い、いつか再会できることを楽しみにしています。

後輩へのメッセージ とにかく楽しんで! 周りへの感謝は忘れずに!



柔道クラブ(学生寮の丘の上)



友人たち(パリ)



学部卒業式



研究室での活動



四国電力株式会社
再生可能エネルギー部 総括グループ

真井 翔太郎 Shotaro Manai
(創造工学部 2022年卒)

インフラを通じて、 地域貢献する

自分の仕事が、100年間にわたって人の役に
立つというやりがい

高校生の時に物理が得意で、土木に興味をもつようになりました。土木の知識をどうやって社会に役立てていけるかを考えた時に「防災」というキーワードと出会い、創造工学部の防災・危機管理コースに進学しました。今は、四国電力で水力発電所の計画に携わり、新規発電所の建設を目標に経済性を評価したり、概略設計を行ったりしています。

人々の生活は、インフラが整って初めて進んでいくもの。私は香川県出身で、地元の方々のお役に立てる仕事がしたいと思って就職活動を行っていたので、夢が叶った形です。また、水力発電所はメンテナンスをしながら100年もつ設備とも言われており、今私が携わっている計画によって、この先100年もの間、地域の皆様に安定的に電力を供給できると思うと非常にやりがいを感じます。

「防災士クラブ」での経験が活かされている

在学時は「防災士クラブ」に所属し、被災地でボランティア活動を行っていました。現地に行かなければ会得することができなかったであろう危険予知能力を養えたと思います。また、大学一年生の時には、防災士の資格も取得。水力発電所建設のために山を削ることがあり、工事によって地元の方が被害を受けないように防災的な設備を建設する場合があるのですが、そういう時に大学時代の経験や身に着けた知識が役立っていると感じます。

今後は、水力発電所を運営している部署や設備の保守を担当している部署も経験してみたいですし、原子力、火力、風力、太陽光といった他部門でも仕事をしてみたいです。それぞれの場所で豊富な知識を蓄え「あの人に聞いたら、電力のことは何でもわかる」と言われるような、皆さんから頼られる電力マンになりたいです。



帝国製薬株式会社
製剤開発部

入口 緒里 Chisato Iriguchi
(農学部 2020年卒)

つねに学ぶ姿勢をもち、 成長し続けたい

農学部で身につけたことが、製薬業界でも活かした

私が大学生の時に祖父ががんを患い、少しでも痛みを和らげる治療方法がないかを考えるようになったことがきっかけで、製薬業界に興味をもつようになりました。農学部だったので、最初は製薬会社で働くことに不安がありましたが、インターンに参加した時に「帝国製薬では、薬学部以外の学部出身の人が多く働いている」と聞き、安心しました。インターンで実務体験をさせてもらい、入社後の仕事のイメージがしやすかったことも入社を決め手となりました。大学では植物病理学を研究しており、実験器具の使い方、薬物や機密情報の取り扱い方の基礎知識があったので、スムーズに仕事をはじめることができました。実験でデータを取るとなると根気強さが必要になるので、そこが大学時代に身につけていたのも良かったなと思います。



途中で考えることを止めてしまったら、
学びは生まれない

今は製剤を扱う部署で、イオントフォーシスやマイクロニードルなど、電気を使って経皮吸収を高めるデバイスについて調査したり評価したりしています。薬剤が入りやすくなると痛みを伴うことが多いため、痛みを回避するために、どういう素材が使われているのか、どういう工夫がなされているのかを調べます。最新の情報が得られるのはおもしろいですし、既存の製品と新しいデバイスを組み合わせて、新しい概念の製品が誕生するかもしれないと思うとワクワクします。

思い通りの実験結果が出ないことも多々ありますが、その事実をしっかり受け止め、「なぜそうなったのか」を考えることを大切にしています。途中で考えることを止めてしまったら、そこから学びは生まれません。つねに学びの姿勢を忘れず、新しいことも取り入れながら成長し続けたいです。



四国旅客鉄道株式会社
総務部勤務課

佐々木 理那 Rina Sasaki
(経済学部 2021年卒)

持ち前の行動力で 次々と思いを形に

「駅」をキーワードに活性化を考える

経済学部の地域活性化プロジェクトを通じて、「大好きな香川に貢献するために、私が一番熱くなれるのは何だろう」と早くから考え続けていました。そんな時に先生から「ドイツのまちづくりは先進的」と聞き、3回生でドイツのラインマイン大学(学術交流協定校)へ留学。現地の生活をきっかけに、「駅を中心とするまちづくり」に興味が生じました。

それを実現できる場所として就職先に選んだのが、JR四国です。観光列車「四国まんなか千年ものがたり」のアテンダントと企画運営を担当し、2023年には讃岐提灯の魅力を発信する経済学部のプロジェクト「TERASU」とコラボして、「ちようちんカフェ」の観光列車バージョンも実現。私も大学時代にちようちんカフェの商品開発にかかわった経験があり、1000年の歴史を持つ讃岐提灯の魅力やTERASUの思いは観光列車にも共通するのではないかと、私から担当教授に提案した企画です。「観光列車」と「大学生の活動」という普段あまり接点のない客層が入り混じったことで、より広い発信につながりました。

「外」から「内」へ、違う視点を学んだ部署異動

観光列車のアテンダントとしての活動中、もっと女性が働きやすい環境があれば…と感じたことから、希望を出して勤務課に異動。制度が整っていても社員に知られていない福利厚生が意外とあることを知り、情報発信に改善が必要だと感じたんです。外に向けたサービスと違って内部を充実させることは一から学ぶことも多く、裏方の仕事をしてくれる人たちのおかげで外向きのサービスができる、事務職員がいてこそ商品企画だと気づけたのは大きな収穫でした。

周囲に「いいね」と言われるとすぐ実行するフットワークのおかげかもしれませんが、振り返れば、「何ひとつ悔いはない!」と言い切れるくらい、やりたいことを実現してきたように思います。大学時代は学内の活動にとどまらず、バイトに打ち込んだり、同級生と一緒に学生主催の就職活動マッチングイベントの企画運営に奔走したり。社会人になってからやりたいことに時間を割くのはなかなか難しいもの。時間を贅沢に使える大学生のうちに、やりたいことを100%やりきってください!





KAGAWA
UNIVERSITY'S
ALUMNI

卒業生紹介

中京テレビ放送株式会社
アナウンサー

岡田 健太郎 Kentaro Okada
(法学部 2020年卒)

報道とスポーツの両輪で 進化し続けるキャリア

報道への道は、大学時代の映画出演から

この業界に入ったきっかけは、大学時代の映画出演です。法学部の先輩に当たる水沢孝徳さん監督作『商店街を深夜、全速力で走る男』の出演者募集告知を見かけて、演技経験はなかったけれど「やってみるか!」と。同作は「さぬき映画祭2017」で優秀企画上映作品に選ばれ、その後も2019年にかけて3作に出演。一視聴者とは違う「映る側」の視点を知り、映像制作に本格的な興味を持ったんです。

役者の道も考えましたが、決して甘くはない。テレビの前で何かを伝える仕事ならアナウンサーもあると気づき、在学中に地元放送局のスクールに通って方言も直しました。最初に採用通知をもらったのが、中京テレビとのご縁。2022年、第43回NNSアナウンス大賞で最優秀新人賞をいただき、ニュースとスポーツというテレビにおける重要分野に携わっています。ただ、アナウンサーはタレントではありません。視聴者と同じ感覚を忘れず、「聞かせていただく立場」を大切にしています。

華やかなキャリアの影には地道な努力

現在の仕事はスポーツ実況が中心です。東海エリアには多種多様なリーグがあり、毎週違う競技を実況することもあります。実況スキルを磨くため、他の人の実況をたくさん聞き、それを口に出す訓練をひたすら続けています。実況を聞いた数には自信があります。実況アナウンサーの道を極め、中京テレビのエースと認められるのが今の目標です。

テレビは衰退産業とも言われますが、リーチ力は衰えていません。災害時には正確な情報を瞬時に放送するべく、多くの人が関わっています。その情報や呼びかけで人の命を救えるかもしれません。そんなメディアの世界を志す皆さんには「なぜこれが放送されているのか」「なぜ視聴者が減っているのか」といった素朴な疑問から、業界を研究してみしてほしいですね。同時に、自分が何に喜びを感じ、何に興味を持つのか、自分のこともしっかり分析しておく、どんな場でも物おせず話せるはず。大学時代は、大人になるための勉強の場です。後悔のないように、どうか思い切り過ごしてください。



卒業生紹介



KAGAWA
UNIVERSITY'S
ALUMNI

株式会社吉田石油店
経理部経理課

田中 伶奈 Rena Tanaka
(教育学部 2023年卒)

理解ある職場が支える 社会人アスリート生活

競技一筋、ストイックな大学時代

小学4年から陸上競技を始め、棒高跳び歴は中学2年から。教員を目指していることと、競技を続けられる環境を重視して、「強豪校に行くよりも、地元でもある地方都市で結果を出したい」という思いから香川大学の教育学部を選びました。大学周辺施設の設備も活用しながら基礎を固め、母校・観音寺第一高校で実践的な練習をする毎日。もうちょっとサークルや学生プロジェクトに参加してもよかったな…と思うくらい、競技一筋でした。

卒業後も香川で競技を続けたい私の思いと「将来は体育の先生になりたい」という夢まで理解した上で、競技環境を整えてくれたのが、吉田石油店です。始業から15時頃までは会社で経理業務、16時から観音寺第一高校で練習という勤務体系で、大会前などはお休みもいただけます。2023年は社会人になって最初の年ということもあり、仕事と競技の両立の難しさも痛感した1年でもありました。時間配分を意識してメリハリをつけつつ、程よく肩の力を抜くのも大事。小学5年生の時から一緒にいる猫との時間は、疲れも忘れるひとときです。

世界の晴れ舞台を目指して日々コツコツと

私にとって棒高跳びという競技の魅力は、自分の身長何倍もある高さを跳ぶ爽快感と、「どのボールを使うか」「バーの奥行きは？」など頭を使う要素が大きいところです。すべての要素がびったりかみ合ってバーをきれいに超えられた時は、本当に気持ちいいですよ。

大学時代の競技仲間で現在も競技を続けている人は少なく、私はとても恵まれていると思います。当社だけでなく取引先や近隣の人たちまでサポートしてくださるのは、社会人アスリート生活の大きな支え。温かい応援のおかげで、2023年10月のかごしま国体では成年女子棒高跳びで優勝できました。将来の体育教師の夢を温めつつ、今は2025年に東京で行われる世界選手権に向けて、日本選手権優勝と日本記録更新を目指しているところ。決して不可能ではない目標だと思っています!





Kadai SALON

KAGAWA UNIVERSITY'S ALUMNI

香川大学医学部附属病院
小児科

川口 幸穂 Yukiho Kawaguchi
(医学部 2019年卒)

さまざまな困難と向き合う 子どもたちを応援したい

6年間勤務したコンサル会社を辞めて、医学部に編入

外資系の戦略コンサルティングファームに6年間勤務したあと、医学部に編入しました。このまま昇進したら管理職になるというタイミングで「自分が本当にやりたいことは何か」を考え、学生の頃から興味があった医学の道に舵を切り直しました。社会人になってから、学ぶことにより面白みを感じるようになっていたので、学生になることに不安はありませんでした。また、医学部には再受験生や編入生がたくさんいるので、すぐに仲間もできました。医学の基礎知識は、医師である限りずっと必要なもの。香川大学で自分の礎を広く、しっかりと築くことができたいと思います。

長期入院していた子どもたちのために 「ティラノサウルスレース」を開催

コロナ禍になった頃、2歳の男の子が白血病で入院し、狭い部屋の中で一年間ほど生活を送らざるをえなくなっていました。入院中、彼が院内のちょっとしたイベントですら心待ちにしている姿を見て、長期入院している子どもたちに楽しみを作ってあげたいと一念発起。「ティラノサウルスレース※」を主宰することにしました。第二回のレースに参加してくれた彼は5歳になっており、大きくなった姿を見た時の感動はひとしお。レースも見事に走り切ってくれて、こんなにも元気になったのかと本当にうれしかったです。

今後は、小児科医としての専門性をさらに突き詰めたいと考えています。とくに興味があるのが、児童精神の分野。今、児童精神科医が足りておらず、受診したいのに半年待ちのような状況が当たり前になってしまっています。そんな現状を解決する一助となるべく、まずは今年、専門医試験を受ける予定です。成し得る限り「ティラノサウルスレース」も継続し、さまざまな困難と闘う子どもたちを応援し続けたいです。



※ティラノサウルスに扮した総勢100人ほどが参加するレース。2023年に有明浜で開催した第二回大会は、小児病棟で長期入院を経験した子どもと家族を特別招待。さらに不登校経験がある高校生をスタッフとして起用し、さまざまな困難と向き合う子どもたちを応援するイベントとして高く評価された。

